

ゆい 結 通 信

NO. 47

2021年1月10日

地域に根を張る

～40年を振り返って～

牧野 直子

新しい年を迎えて

コロナ感染拡大の中で迎えた新年、皆様はいかがお過ごしでしょうか？世界中にあっという間に広がった新型ウイルスはこれまでにないあらたな脅威を私たち人間社会に突き付けています。なんとか今年こそこの困難を克服し、あらたな道を探りたいものです。「結みのお」でこれまで培った力をどう活かせるかも問われています。

子育て時代の仲間づくり

さて私が箕面に移り住んで今春で40年になります。千里ニュータウンから越してきた時は3才と1才の子育てで真最中でした。早速、「箕面おやこ劇場」に入会し、子育て世代の沢山の仲間と出会いました。そして、ご近所の方々と食べ物の共同購入グループを始めました。またまわりに声をかけて、近くの公園で青空共同保育「げんき会」をスタートさせました。この頃の子育て時代の仲間との出会いがその後の私の活動の原点となりました。

親の介護に関わって

そのうち、今度は親の介護の問題が出てきました。実家の両親が順に認知症になり、その後、箕面の両親の介護にも関わることとなりました。私は母を家に引き取り、歌の好きな母のためにリハビリのコーラスグループ「さくら会」を立ち上げました。箕面のご自宅で「寝たきりにならない教室」を開いておられた田中滋子さんとの出会いがきっかけでした。34年前のことです。

家庭を超えたつながりを

子育ても親の介護も家庭の中だけでは無理だと痛感しました。そして、阪神淡路大震災が起きた1995年、舅を見送り、翌年の箕面市議選で、「子育てと親の介護の経験をもつ普通の女性の声を議会に届けよう！」と議会に送っていただきました。当時は27名の議員のうち女性議員はただ1人だけでしたが一挙に3人になりました。議会はまったく自分の常識が通らない世界でしたが、お陰様でネットワークが広がり、沢山のことを学びました。

社会に目を向ける

1991年1月に始まった湾岸戦争を機に、世界に反戦の動きが盛り上がり、箕面でも有志で反戦のデモ行進をしました。そしてそれをきっかけに世界の富が偏在していることを知り、「『人間の大地』(犬養道子著)を読む会」を発足させ、ごみ問題にも取り組みました。

また1998年には地球温暖化をストップさせようと「15%クラブ」(せめて週に一回は省エネを!)を仲間と共にスタートさせました。ただ、このさやかな活動も長くは続きませんでした。そして地球の温暖化はすすみ、ついに今の異常気象へと続いていきました。

持続可能な社会をめざして

そして、2005年「菜の花プロジェクトみのお」が誕生しました。ナタネ栽培を通して地域資源循環社会をめざそうという市民活動です。昨年15周年を迎えました。最近、しきりにSDGs(持続可能な社会を!)ということが叫ばれるようになりました。このままでは地球がもたないというやく気付いたからです。「足るを知る」ことを知らずにどんどん資源を無駄遣いしてきた私たち。これ以上資源を無駄に使って次世代にそのつけを回してはいけません。

地域のネットワークを深めよう!

箕面に来て40年。様々な活動をしてきましたが、これからはつながった地域のネットワークを深めることです。それが地下茎のように地域に根を張り、自分たちの生活を支えてくれることでしよう。そんな心が通い合う安心できる社会を共に創っていきましょう。

昨年、地球上に突如現れた新型ウイルス。これらが正念場と言われています。ソーシャルディスタンスという新しい言葉が生まれました。お互いに距離を置きつつ、それでもつながる太いあらたなネットワークを編み出していきたいと思います。

